

バングラデシュ・ジョシヨール県の 零細ヤシ砂糖生産者と花卉農家の6次産業化を 通じた生計向上プロジェクト

本事業は
外務省日本 NGO 連携無償資金協力を
受けて実施しています。

プロジェクトの背景

2023年5月から始まった本事業は、バングラデシュの世界遺産（世界最大のマングローブ森である「シュンドルボン」や15世紀に建造されたモスク都市「バゲルハット」）を訪れる際に、空路での玄関口となっているジョシヨール県で実施されています。ジョシヨール県の主要産業は農業で、ヤシの樹液を採取して生産するヤシ砂糖や花卉栽培が有名です。

JEEFではバングラデシュ南西部に位置するジョシヨール県において、ヤシ砂糖生産者と花卉栽培農家の生計向上と自然環境保全の両立に向けた活動を実施しています。また、自然物を使った手工芸品やアグロツーリズムの開発、小学校での環境教育とオーガニック学稼農園の実施など多様な取り組みで地域全体を支援しています。

冬に路上で売られる米粉を使った蒸

し焼きパンの中にはヤシ砂糖が入っており、出来立てアツアツをほおぼるのがたまりません。また、お祭りや結婚式、お客さんをもてなす際には必ず色とりどりの花が用意され、バングラデシュの人々にとって花が生活になくはならないものとなっています。そんなヤシ砂糖と花卉ですが、その生産農家は特に経済的に大きな課題を抱えています。

生産農家が抱える課題

ヤシ砂糖生産においては、生産者がヤシの木に1本ずつ登って採取作業を行うため、大量生産することができず、後継者不足も心配されています。また、ヤシの木が燃料用として伐採され減少しているのに対し、若い木を十分に育てられていません。

花卉栽培においては、生産技術等の

不足による品質の低下や、農薬や化学肥料による土壌への影響が懸念され、花卉の保存管理や輸送システムの欠如も課題になっています。また、観光客が多く訪れるエリアですが、アグロツーリズムとして花畑を生かきれているとは言えません。

そして、いずれにおいても、生産物の販売時には仲介業者が介入しているため、特に零細農家や女性はヤシ砂糖や花卉を適正な価格で取引できず、十分な現金収入を得るのが難しい状況となっています。

そこで本事業では、生産物の質を向上させ、またマーケティング戦略や加工商品開発でブランド化し付加価値をつけるなど、これまでのバングラデシュ事業で培ってきた経験を生かした取り組み





みを協力団体であるBEDS（※）と共に実施しています。

プロジェクトの進捗

本事業では生産者が抱える課題を踏まえ、農業や農村の振興および観光の促進による生計向上と自然環境保全の両立を目指し、①ヤシ砂糖生産者②花卉生産農家（アグロツーリズムを含む）③手工芸グループ④学校教育の4つのセクターに働きかけを行っています。1年目である本年度は関係づくり、組織化、基盤整備、生産技術向上トレーニングを中心に進めています。

生産者へのアプローチとしては、これまでに生産者共同組合を設立し、政府への登録を行いました。政府登録をすることで組合として銀行口座を開設したり、政府関連のイベントへ出店ができたりと、販路拡大や収入向上への基盤となります。これから組合メンバーと毎月ミーティングを重ねながら、トレーニングや過去事業地へのスタディツアーを実施していく予定です。

その中でも、花卉の手工芸チームの女性たちはとても熱意があり「Mika! 次は商品の質を上げるための知識を教えてください! 生け花についても知りたい!」と積極的にアプローチしてきてくれています。また、栽培したヤシの苗木の植林も行い、約500本の植樹を終えています（2023年9月末現在）。

学校教育については、対象となる公立小学校10校を選定し、学校菜園づくりと環境教育の2本立てで取り組みが始まっています。子どもたちと一緒に植え、オーガニックな栽培方法で育てた野菜は、冬に収穫し料理教室を行ってみるなど味わう予定となっており、子どもたちはとても楽しみにしてくれています。

プロジェクトのこれから

今回メインターゲットになっているヤシ砂糖と花卉は、ただ単にジョシュール県の主要産業であるというだけでなく、バングラデシュの伝統産業と文化を守るということにも繋がっています。樹液の採取壺がぶら下げられたヤシ並木や花を抱えた人々の笑顔は、これからもバングラデシュで大切にしていきたい原風景です。

また、過去に実施した事業地へフォローアップとして訪問した際に、「主婦は子どもの世話や家事が主な仕事だと思っていたが、トレーニングを受けてそれだけが女性の人生ではないと知った。」と話してくれた生産者がいました。本プロジェクトにおいても、人々がエンパワメントされ自分らしく生きていくきっかけを作ることができればと考えています。

大塚 美香 (おおつか みか)

JEEF 第2事業グループ職員。青年海外協力隊としてバングラデシュで活動を行い、人々の優しさに何度も助けられました。「バングラデシュと日本の架け橋になれる仕事をしたい」という念願が叶い、バングラデシュ事業担当として現地の皆さんと奮闘中。

